

VHSで親しまれていた全4巻のシリーズが、DVDになりました。

# DVD「男の子を育てる」

**新発売** 「男の子を育てる」  
—実践的アドバイスと励まし—  
ジェームス・C・ドブソン



セクション1〜3までは、書籍と重なるところが多いのですが、セクション4「同性愛の予防と治療」の中の、二人の元同性愛者のあかしは書籍には載っておらず、DVDにだけ収録されています。

どのように同性愛者になり、またどのようにその生活から抜け出したのか、これは一見に値します。二人の証しを要約してみましよう。

- セクション
- 1 「男の子の深刻な問題」(35分)
  - 2 「心の傷といやし」(50分)
  - 3 「家族の時間を作る」(35分)
  - 4 「同性愛の予防と治療」(50分)
- 定価5,250円(税込)(送料はサービス)

ジョン・ポークさんは、不安定な家庭に育ちました。高校三年生になるまでに、父も母もそれぞれ三度も結婚してはくり返し離婚したのです。お父さんもおじいさんも子どもには疎遠で、母親とばかり過ごしたので、ジョンさんはお母さんを真似て女性のようなそぶりをするようになりました。

18歳の時にゲイバーに誘われたのがきっかけで、同性愛者に出会いました。多くの同性愛者に出会っては別れ、「人間なんて誰も信用できない」と絶望に陥りました。

24歳の時に出会ったクリスチャンに導かれて、イエス・キリストを知るようになりました。

「キリストだけはほくを裏切らない、一緒に歩んでくれる」

30近くになって初めて女性に対して愛情を抱くようになり、やはり同性愛者であった女性アンさんと結婚して、今では幸せな家庭を築いています。

もう一人のマイク・ヘイリーさんは、クリスチャン・ホームで二人の姉の下に生まれました。お父さんはクリスチャンでしたが、マイクさんの嫌いな男性的スポーツを習うよう無理強いらしたので、彼

はかえって男嫌いになり、お母さんっ子になってしまいました。

マイクさんが11歳の頃、お兄さんのような人が現れ、デイズニーランドに連れて行ってくれ、サーフィンも教えてくれました。ところが、同時に性的な虐待が始まったのです。当時はそれとわからなまま、高校生になっても同性愛的な関係は続きました。16の時には、「自分はゲイなんだ」と思っていたそうです。

教会には行っていたものの、「同性愛をやめる人がいる」とは聞いたことがありませんでした。

甥や姪の顔を見ると「自分も子どもは持ちたいけど、ゲイだから無理なんだ」と強く思い込んでいました。

ある時、ゲイ専用のスポーツクラブに行った時、クリスチャンに会いました。その人は、

「僕は、実はクリスチャンなんだ、ゲイはもうやめようと思っている」

と言い出しました。びっくりしたマイクさんは、その話しに聞き入りました。

それがきっかけで、マイクさんもゲイの生活から離れるようになったのです。その後、教会の

ユースパスターとして働き、今ではフォーカス・オン・ザ・ファミリーで意識の混乱に悩む人を助ける働きをしています。

この作品で同性愛者の本心を聞くという人は多いことでしょう。

日本のメディアは、「同性愛も人間の多様な生き方の一つで、同性愛者も自分の好きに自由に生きる権利がある」という論調に統一されているようです。

しかし、これは、明らかに聖書に反しており、よく言われる「生まれつきのゲイがいる」などという説には、科学的な根拠はありません。ポークさんやヘイリーさんのように、ゲイの生活をやめて普通の生活に戻る人は決して珍しくはありません。

このDVDは、同性愛問題だけを扱っているのではなく、「男女の基本的な違い」「男の子の陥っている深刻な問題」「家族の時間を作る大切さ」なども大切なテーマとなっています。

聴衆とドブソン博士とのやりとりも、映像ならではの楽しさがあります。同時発売の書籍とあわせてお使いいただけたら、「男の子」を育てている親にとって、頼れる教材の一つになることでしょう。